

近畿大学次世代基盤技術研究所報告 Vol.3 (2012)

の発行にあたって

近畿大学次世代基盤技術研究所
所長 角田 勝



近畿大学次世代基盤技術研究所は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〔平成 21 年度～平成 25 年度（5 年間）〕の採択を機に、それまでの工業技術研究所から改組・設立されて、早 3 年目にはいりました。この間、研究所の活動は「近畿大学工学部産学官連携推進協力会」をはじめとした社会・地域連携の窓口としての「社会連携センター」と上述の採択支援プロジェクトを推進する「自動車技術研究センター」を中心に行ってまいりました。また、持続可能な社会を構築できる技術開発を目指し、雨水・太陽熱などの自然エネルギーの有効利用を図る「建築環境研究センター」、そして実際のサービス現場を実証フィールドとして科学的・工学的手法を用いてサービス産業の生産性向上を探求する「サービス工学研究センター」、さらに様々な成分や物質を研究し、医療や食品に役立つための研究を行う「バイオ工学研究センター」も設置して、それぞれ各分野において先駆的な研究活動を推進してまいりました。

ところで、バイオ工学および化学技術の進歩はめざましく、物質（化学）と生命工学の境界領域には多くの次世代基盤技術が萌芽しています。そこで、本研究所では平成 24 年 4 月「バイオ工学研究センター」を「先端化学生命工学研究センター」に改め、旧センターの分野・内容を拡大して生物工学と物質（化学）の融合・複合領域での素材、システム等の開発と実用化を目指すこととしました。

さて、第 3 巻（2012 年）の本報告では、まずは前述の 5 つのセンターの活動概要（最近 1 年間）および戦略的プロジェクトの進捗について報告させて頂いています。また、産業界と関わりの深い研究内容を著した論文や技術報告も掲載し、研究所全体の研究・活動状況をまとめています。

本研究所ではこれらの研究・活動報告を通じて最新技術情報を提供し、地域経済産業界の発展に役立つよう、また還元できるよう活動を続けて参ります。本報告書が地域産業界に携われる方々の参考になり、近畿大学工学部ならびに次世代基盤技術研究所との連携がさらに強まれば幸いに存じます。

平成 24 年 6 月